

令和四年度筑波大学附属図書館特別展
創基一五一年筑波大学開学五〇周年記念特別展

孔子をまつる

歴聖大儒像の世界

別冊

凡 例

1. 本書は「令和4年度筑波大学附属図書館特別展 孔子をまつる―歴聖大儒像の世界―」の図録の別冊である。狩野山雪「歴聖大儒像」の全21図を掲載している。
2. 伏羲から孟子までの15図は、東京国立博物館の所蔵品であり、東京国立博物館 (Image:TNM Image Archives) より、画像提供を受けた。周子から朱子までの6図は、筑波大学附属図書館の所蔵品である。
3. 本書は以下の分担で執筆し、編集および校正については特別展ワーキンググループが行った。
 - ・谷口孝介(人文社会系教授) 賛文訓読
 - ・水野裕史(芸術系助教) 像主解説



『孔子』

祖述堯舜、憲章文武。上律天時、
下襲水土。(中庸・三十章)

堯・舜を祖述し、文・武を憲章す。上は天時に律り、
下は水土に襲る。



黃帝
剡木為舟、剡木為楫、舟楫之利、以
濟不通、致遠以利天下、天下罔不為孤、則
木為安、孤矢之利、以威天下

漢學全世海書

『黄帝』
剡木為舟、剡木為楫。舟楫之利、以
濟不通、致遠以利天下。弦木為弧、剡
木為矢。弧矢之利、以威天下。(周易・繫辭下)
木を剡りて舟と為し、木を剡りて楫と為す。舟楫の利、以
て通ぜざるを濟し、遠きを致して以て天下を利す。
木を弦して弧と為し、木を剡りて矢と為し。弧矢の利、
以て天下を威す。



神農
斲木為耜、揉木為耒、耨耨之利、以教天下
日中為市、致天下之民、聚天下之貨、交易
而退、各得其所

漢學全世海書

『神農』
斲木為耜、揉木為耒。耨耨之利、以教天下。
日中為市、致天下之民、聚天下之貨、交易
而退、各得其所。(周易・繫辭下)
木を斲りて耜と為し、木を揉めて耒と為す。耨耨
の利、以て天下に教う。
日中に市を為し、天下の民を致し、天下の貨を聚
め、交易して退き、各その所を得しむ。



伏羲
仰則觀象於天、俯則觀法於地、觀鳥獸之文、
與地之宜、近取諸身、遠取諸物、於是始作八
卦、以通神明之德、以類萬物之情

漢學全世海書

『伏羲』
仰則觀象於天、俯則觀法於地、觀鳥獸之文
與地之宜、近取諸身、遠取諸物。於是始作八
卦、以通神明之德、以類萬物之情。(周易・繫辭下)
仰いでは則ち象を天に觀、俯しては則ち法を地に觀、鳥獸
の文と地の宜とを觀、近くは諸を身に取、遠くは諸を物
に取る。ここにおいて始めて八卦を作り、以て神明の徳を
通じ、以て万物の情を類す。



『大禹』

地平天成、六府三事允治、
 万世永頼、時乃功。(尚書・虞書・大禹謨)
 地平らぎ天成り、六府三事允に治まり、万世永く
 頼むは、時乃の功なり。

『帝舜』

重華、協于帝。濬哲文明温恭、允
 塞、玄徳升聞。乃命以位。(尚書・虞書・舜典)
 華を重ね、帝に協う。濬哲文明温恭、允に塞がり、
 玄徳升り聞こゆ。乃ち命ずるに位を以てする。

『帝堯』

放勳、欽明文思、安安。允恭克
 讓、光被四表、格于上下。(尚書・虞書・堯典)
 勳に放いて、欽明文思、安んずるを安んず。允に
 恭しく克く讓り、四表に光被し、上下に格る。



成湯
 惟王不邇声色、不殖貨利、德懋
 懋官、功懋懋賞、用人惟己、改過不
 吝、克寬克仁、彰信兆民。

漢學金世源書



『成湯』
 惟王不邇声色、不殖貨利。德懋
 懋官、功懋懋賞。用人惟己、改過不
 吝。克寬克仁、彰信兆民。
 (尚書・商書・仲虺之誥)
 惟王声色を邇けず、貨利を殖せず。徳懋め
 るは官を懋ましめ、功懋めるは賞にて懋ましむ。
 人を用うるは惟己にし、過ちを改むるに吝か
 ならず。克く寛く仁、信を兆民に彰かにす。



文王
 維天之命、於穆不已、於乎不顯、
 文王之德之純。

漢學金世源書



『文王』
 維天之命、於穆不已。於乎不顯、
 文王之德之純。
 (毛詩・周頌・清廟之什・維天之命)
 維天之命、ああ穆として已まず。ああ不顯な
 る、文王の徳の純らかなる。



武王
豊水有芑武王豈不仕
詒厥孫謀
以燕翼子武王烝哉

漫學金世澤書



周公
狼跋其胡載躄其尾
曰孫碩膚
赤舄几几

漫學金世澤書



『周公』

狼跋其胡、載躄其尾、公孫碩膚、

赤舄几几。(毛詩・國風・豳風・狼跋)

狼その胡を跋み、載ちその尾に躄く。公孫は碩膚たり、赤き舄は几几たり。

『武王』

豊水有芑。武王豈不仕。詒厥孫謀、

以燕翼子。武王烝哉。

(毛詩・大雅・文王之什・文王有聲)

豊水に芑有り。武王豈仕えざらん。厥の孫謀を詒し、以て燕んじ翼子す。武王烝いなる哉。



孟子
惟公之生、運適周衰、正途壅底、大道凌遲、
公承三聖、力辨群疑、禽獸楊墨、妾婦秦儀、
宜載于典、宜配先師。

漢學全世澤書



曾子
晉楚之富、不可及也、彼以其富、我以吾仁、彼
以其爵、我以吾義、吾何慊乎哉。

漢學全世澤書



『曾子』

晉楚之富、不可及也。彼以其富、我以吾仁。彼
以其爵、我以吾義。吾何慊乎哉。

(孟子・公孫丑章句下)

晉楚の富は、及ぶべからざるなり。彼はその
富を以てし、我は吾が仁を以てす。彼はその
爵を以てし、我は吾が義を以てす。我何ぞ慊
せんや。

『孟子』

惟公之生、運適周衰。正途壅底、大道凌遲。
分承三聖、力辨群疑。禽獸楊墨、妾婦秦儀。
宜載于典、宜配先師。(元許衡・祭鄒國公文)

惟れ公の生、運は周の衰うに適る。正途壅底
し、大道凌遲す。三聖を分承し、力めて群疑
を辨ず。楊・墨を禽獸とし、秦・儀を妾婦と
す。宜しく典に載すべく、宜しく先師に配す
べし。



『顔子』
 顔子
 舜何人也。予何人也。有為者亦若是。
 (孟子・滕文公章句上)
 舜何人ぞや。予何人ぞや。為すある者も亦たかくのごとし。



『子思』
 魯穆公、無人乎子思之側、則不能安子思。
 (孟子・公孫丑章句下) 亟
 魯の繆公は、子思の側に人なければ、則ち子思を安んずる能わず。
 見於子思曰、古千乘之國以友士、何如。子思不悅曰、古之人有言曰、事之云乎、豈曰友之云乎。(孟子・萬章章句下)
 亟しば子思を見る。曰く、「古、千乘の國、以て士を友とすること、いかん」と。子思悦ばずして曰く、「古の人言えることあり。曰く、『これに事つと云わんか』と。豈にこれを友とすと云うと曰わんや」と。



朱子
義理精微、蚕糸牛毛、
心胸恢廓、海濶天高、
豪傑之才、聖賢之學、
景星慶雲、泰山喬岳

法學金世漢書



張子
早悅孫吳、晚逃仏老、
勇撤皐比、一變至道、
精思力踐、妙契疾書、
訂頑之訓、示我広居、
（朱熹「六先生画像贊」）

法學金世漢書



程伯子
揚休山立、玉色金聲、
元氣之會、渾然天成、
瑞日祥雲、和風甘雨、
龍德正中、厥施斯普、
（朱熹「六先生画像贊」）

法學金世漢書

『程伯子』

揚休山立、玉色金聲。
元氣之會、渾然天成。
瑞日祥雲、和風甘雨。
龍德正中、厥施斯普。（朱熹「六先生画像贊」）
揚休山のごとく立ち、玉色にして金声なり。
元氣の会、渾然として天成る。
瑞日祥雲、和風甘雨。
龍徳にして正中なり、その施し斯に普し。

『張子』

早悦孫吳、晚逃仏老。
勇撤皐比、一變至道。
精思力踐、妙契疾書。
訂頑之訓、示我広居。（朱熹「六先生画像贊」）
早に孫・呉を悦び、晩に仏・老を逃る。
勇んで皐比を撤て、一に變じて道に至る。
精思力めて踐み、妙契疾く書す。
訂頑の訓、我が広居に示す。

『朱子』

義理精微、蚕糸牛毛。
心胸恢廓、海濶天高。
豪傑之才、聖賢之学。
景星慶雲、泰山喬岳。（呉澄「晦庵画像贊」）
義理精微なること、蚕糸牛毛のごとし。
心胸恢廓なること、海濶く天高きがごとし。
豪傑の才、聖賢の学。
景星慶雲、泰山喬岳のごとし。



邵子
天挺人豪、英邁蓋世、
駕風鞭霆、歷覽無際、
手探月窟、足躡天根、
閑中今古、醉裏乾坤、

漢學全世海書

『邵子』

天挺人豪、英邁蓋世。
駕風鞭霆、歷覽無際。
手探月窟、足躡天根。
閑中今古、醉裏乾坤。（朱熹「六先生画像贊」）
天挺の人豪、英邁は世を蓋う。
風に駕し霆を鞭うち、歴覽際なし。
手は月窟を探り、足は天根を躡む。
閑中の今古、酔裏の乾坤。



程叔子
規員矩方、繩直準平、允矣君子、展也大成、
布帛之文、菽粟之味、知德者希、孰識其貴、

漢學全世海書

『程叔子』

規員矩方、繩直準平。
允矣君子、展也大成。
布帛之文、菽粟之味。
知德者希、孰識其貴。（朱熹「六先生画像贊」）
規のごとく員く矩のごとく方に、繩のごとく直く
準のごとく平かなり。
允なるかな君子、展なるかな大成す。
布帛の文、菽粟の味。
徳を知る者は希なり、孰れかその貴きを識らん。



周子
道喪千載、聖遠言湮、
書不盡言、言不盡意、
風月無邊、庭草交翠、

漢學全世海書

『周子』

道喪千載、聖遠言湮。
不有先覺、孰開我人。
書不盡言、言不盡意。
風月無邊、庭草交翠。（朱熹「六先生画像贊」）
道は喪びて千載、聖遠くして言湮む。
先覺あらずんば、孰れか我が人を開かん。
書は言を尽くさず、言は意を尽くさず。
風月無辺にして、庭草交ごも翠なり。

歴聖大儒像 像主解説

伏羲

古代の伝説上の聖王で、三皇の一人。蛇身人首の姿と伝えられる。天地の理を理解して『易』の八卦を作り、文字を発明し、民に狩猟や漁労の方法を教えたという。犠牲を養って庖厨の材料に用いたので庖犧とも呼ばれる。

神農

古代の伝説上の聖王で、三皇の一人。火の徳を持っていたため、炎帝ともいう。人身牛首の姿と伝えられる。民に薬となる百草を教え、農耕技術を伝えた。薬草と毒草とを見極めるため、それを試食して薬効や毒の有無を確認した。本草学の始祖として知られる。

黄帝

古代の伝説上の聖王で、五帝の一人。姓は公孫。軒轅の丘に生まれたため、軒轅氏ともいう。炎帝(神農)を継いで天子となる。土徳を持つところから黄帝と号した。暦をはじめさまざまな文明を創出したという。中国医学や兵法の創始者ともされる。

帝堯

古代の伝説上の聖王で、五帝の一人。姓は姓は伊祁、名は放勳。善政をおこない、天文を観測し、暦法を定めた。丹朱と言う息子がいたが不肖であったため後継とせず、臣下から推薦された民間の舜を跡継ぎとし、死後に舜が帝位に就いた。この帝位の移行方法を「禪讓」という。

帝舜

古代の伝説上の聖王、五帝の一人。姓は姚、名は重華。禪讓により堯から天子の位を受け継ぎ、自らも夏王朝の開祖である禹へ伝えた。舜は禹を用いて治水にあたらせ、天下は安定し、後世、堯とともに堯舜の代は聖代と称えられるようになった。

大禹

古代の伝説上の聖王。夏王朝の開祖。名は文命。治水や民政につめてた功により人望を得て、舜のあと天子の位に就いた。国号を夏といい、安邑に都した。その子の啓があとを継ぎ、夏王朝は17代続いたとされる。

成湯 (生没年未詳)

殷王朝の初代の王。名は履。もともと殷は、夏王朝の諸侯国の一つであったが、夏王の桀が暴政をおこなうに及び、殷の諸侯であった湯が決起し、桀を破り、天子の地位に就いた。殷王朝は、第30代の紂王が周の武王に討たれるまで、500年以上続いた。

文王 (?-BC1056)

周王朝の初代の王である武王とその弟の周公の父。名は昌^{しやう}。生存中に天子の位に就いていないが、死後に武王によって文王と追号された。殷王朝の末期、紂王は妃の妲己^{だつき}とともに暴政を敷いていた。文王はこれを諫めるため決起し、その途中で没した。

武王 (?-BC1043)

周王朝の初代の王。名は発^{はつ}。父の文王の遺志を継ぎ、紂王を討った。紂王の暴虐と自らの正統性を説いた「泰誓」(『今文尚書』)を作り、諸侯と盟約を誓った。牧野^{ぼくや}の地で殷軍を破り、天子の位に就いた。その3年後、天下が安定しないうちに病没した。

周公 (生没年未詳)

名は旦^{たん}。周初期の政治家。周王朝の礼制を定めたとされる。武王の没後、後継ぎの成王^{せいおう}が幼かったため、周公は摂政として国の安定に尽力した。周公の子孫は魯^ろに封じられたため、魯の出身である孔子は、周公を礼制の制定者として崇敬した。

孔子 (BC551-BC479)

春秋時代末期の思想家。姓は孔、名は丘、字は仲尼^{ちゆうじ}。魯(山東省)の生まれ。為政への意欲から諸国を遊学したが、孔子の説く道德観は受け入れられず、失意の中、故郷に戻り、弟子たちの育成に尽力した。その教えは、漢代以降、儒教となって国家教学となった。

顔子 (BC6世紀前半-BC481 〈483とも〉)

姓は顔^{がん}、名は回^{かい}、字は子淵^{しえん}、顔淵^{がんえん}とも。魯(山東省)の生まれ。『論語』には24回登場し、後世には四聖の一人「復聖」として崇敬される。孔門十哲の筆頭にあげられ、孔子の弟子の中で最も優秀であったとされる。その将来が囑望されたが、32歳で早逝した。

曾子 (BC505-BC436)

姓は曾^{しん}、名は参^{しん}、字は子輿^{しよ}。魯(山東省)の生まれ。孔子の門人で、孔門十哲の一人。後世の儒教では四聖の一人「宗聖^{そうせい}」として尊称される。親孝行の人として知られ、『孝経^{こうきやう}』の撰者とされる。

子思 (BC492-BC431)

姓は孔、名は伋^{きやう}、字は子思。魯(山東省)の生まれ。孔子の孫で曾子に学んだ。天地の理法を説いて、倫理の基準を示した。後世の儒教では道統の継承者であり、四聖の一人「述聖^{じゆつせい}」と尊称される。また、孟子に学問を伝えたとされ、宋代以降は、賢人として尊ばれた。

孟子 (BC372-BC289)

姓は孟、名は軻、字は子輿、または子車、子居ともいう。魯の鄒(山東省済寧市)の生まれ。子思の門人に孔子の道を学んだとされる。後代、儒家の正統思想(道統)を継ぐ存在とされ、重んじられた。顔子とともに「亜聖」と仰がれる。

周子 (1017-1073)

周敦頤(1017-1073)。北宋の思想家。字は茂叔。道州營道(湖南省)の生まれ。朱子学の宇宙論の基礎となる人性説を唱えた。生前は評価されなかったが、朱熹によって孔子、孟子に続く儒者として高く評価された。

程伯子 (1032-1085)

程顥。北宋の思想家。字は伯淳。明道先生と呼ばれた。洛陽(河南省)の生まれ。弟の程頤とともに、周敦頤に師事し、二程子と呼ばれた。儒学のみならず老荘思想や仏教も学び、宇宙の本体を乾元の気とし、理を基礎とする道德説を唱えた。

程叔子 (1033-1107)

程頤。北宋の思想家。字は正叔。伊川先生と呼ばれた。洛陽(河南省)の生まれ。程顥の弟。性理の学を大成し、理気二元論の説を唱えた。程頤を詠んだ詩文や絵画は、兄の程顥より多く、広く受容されていたと見られる。

張子 (1020-1077)

張載。北宋の思想家。字は子厚。横渠先生と呼ばれた。郿県(陝西省)の生まれ。はじめ仏教や老荘思想に傾倒していたものの、後に儒学の独立性を主張するようになり、気の哲学を提唱した。

邵子 (1011-1077)

邵雍。北宋の思想家。字は堯夫。百源先生、安樂先生と呼ばれた。出自は范陽(河北省)。幼少から才名が高く、共城近郊の蘇門山百源に庵を立てて学問に励んだ。政界の重鎮や二程子ら学者とも交流したが、官には属さず、一生在野の儒家として活動した。

朱子 (1130-1200)

朱熹。南宋の思想家。字は元晦。南劍(福建省)の生まれ。周子や張子、二程子らの理気世界観に影響を受け、儒教の新体系である朱子学(宋学)を大成した。また、釈奠などの儀礼を整備し、『儀礼経伝通解』などを著した。

令和4年度 筑波大学附属図書館特別展
孔子をまつる ー歴聖大儒像の世界ー 別冊
令和4年11月1日 発行
発行 筑波大学附属図書館 ©2022

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2376